

とかく難しいと感じられがちな男女共同参画を、身近な題材から見てもらい、聞いてもらうことにより、広がりへの一石を投じます。

ご要望に添ったオリジナルシナリオで上演します！ **先ずはご相談ください。**

(下記掲載文は、昨年 上演記録の一部を抜粋したものです)

2015.上演実績：23 カ所

町内会女性部 「防災・女性の視点ってナニ？」 「女性と防災って、大事なことね」

始めと終わりに防災劇。その間で、パネルを使った避難所でのさまざまな出来事を考えてもらった。最初、突然劇を始めたので面食らった人がいた。まさか、防災の集まりで劇をやるとは思わなかったようだ。が、しだいに劇の中に入り込んでくれる。じっと見つめられて、恥ずかしい〜。

「避難所で起きるできごとなど、自分で考えたこともなかった。テレビなどで一方的に見せられるだけで、考えはしなかった」という人。ま、それが普通だろう。しかし、普通ではいけない。考えなければ。行動しなければ。そのための一歩、となってくれるといい……。

民生・児童委員協議会定例会 「私 75 歳、まだまだこれから」

要望が「介護」の内容で、リーディングカフェ（参加型朗読）を実施。

認知症が発症した夫ととまどう妻、家庭介護の始まりを劇にしたオリジナルシナリオ「私 75 歳、まだまだこれから」を、参加者に、シナリオを 1 ページずつ持ち回りで、役になりきって読んでもらう。男性が「女性役」になり女性になりきり読み上げる人、恥ずかしがって大声をだせない人、読み間違えて赤面する人……。しかし、始まる前と終わってからでの顔が全く違う。晴れ晴れと、すっきりと、笑顔に。やさしい顔になっている。これがリーディングカフェの魅力。

大声で読み上げることで「緊張」し、脳が活性化する、これがボケ防止につながって行く……。

小学校 1 年生 「人権教育の一環」

アドリブ劇で、乱暴な言葉遣いの女の子、弱虫・泣き虫の男の子の 2 人のやり取りの後、「言葉遣い」について、みんなに問かける。「女の子って乱暴な言葉を使っちゃあいけないんだよ」「男ってさあ、小っちゃい声で話しちゃ、だめ」こんなに小さいのに、男は女はこうあるべし、ということを誰かに刷り込まれているようだ。誰に？ ここが問題だ。

私たちが、同じ 1 年生役でクラスの子たちと仲間意識を作って、「それって、おかしいと思わない？」

「いいじゃん、男の子も女の子も、同じだよ」。子どもの頭は柔らかい。私たちも一生懸命に男女共同参画意識を刷り込んでいく。最後に、友だちのいいところを言い合う。「〇〇さんは走るのが早いです」など。お互いにほめ合い、認め合えば、いじめも差別も起きてこない……。

小学校 5 年生 「大人になった自分を考える」

キャリア、仕事の選択について考えてもらう。大きくなってどんな仕事をしたいか、考えている子はほんのわずか。今サッカーをやっているから「サッカー選手」、親が中華料理屋を経営しているからあとを継いで「コックさん」という具体性ある子も。5 万以上もある職種からチョイスするのは、大変難しい。が、男の仕事・女の仕事などと選り分けてのチョイスだけはしてほしくない……。

公民館、生涯学習センター等々 「おばあちゃんとボクの男女共同参画」

男児が母のお手伝いをしようすると、祖母に「調理は女の仕事だから、やらなくていいと言われる」男児は学校で習った「男は仕事、女は家事・育児となんでおかしい、家族が協力し、支えあうことが必要」と話すことで家族の団結を強める劇を実施。



【問合せ先】

びっくり箱劇団（担当：大國）

TEL:090-3152-8028

SWOS の会
びっくり箱劇団

